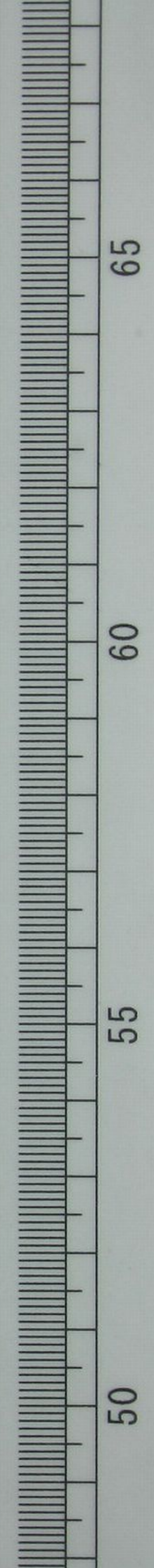


1	13
1132	
3	



門 4 13
號 1132
卷 3

和歌布留好のよきまの三目録
大正十五年二月
尾崎仙文氏寄贈

恋の部

恋 一 初恋 二 初言恋 三 洩始恋

言初及借恋 不言恋 三 歎言出恋 忍恋

雜思恋 四 悪切恋 五 軍恋 人傳恋

貝恋 三 子見恋 六 僅見恋 夢見恋

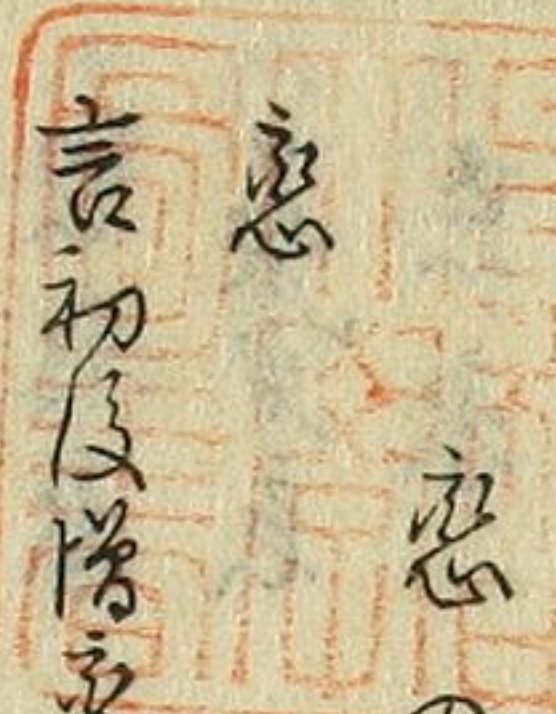
尋恋 二 久恋 七 舊恋 經年恋

祈恋 八 祈逢恋 祈望恋 誓恋

契恋 九 契空恋 契實恋 契絶恋

憑恋 十 待恋 待使恋 十一 待便恋

待望恋 結不來恋 不待恋 十二 臨期交恋
臨期遠物恋 未子留恋 子建恋 十三 近子建恋



幼恋	四二	近恋	遠恋	恋遠人	四四
旅恋	四三	旅宿恋	旅泊恋	獨寐恋	四四
獨居恋		轉寐恋	寐覺恋	恋夢	四五
言中恋		夢及恋	恋面影	恋形見	四六
秘恋		人妻	通心恋	不叶心恋	四七
七夕恋		恋命	懸命恋	恋夏喜	
恋天象		恋地像	只		

和歌集留し山子安せきの三

恋の部

○恋

こひあろ	こひくさ	恋やほ	恋まき
あひしん	恋まき	恋の糸	恋のこり
恋のまき	恋のやつ	恋のやま	恋のまき
かきこ	恋のひま	あれこひ	恋ぬら
妹こひ	あら恋	なまぬ恋	恋の鼻
いもかり	ふこつ	むつ	くぬ
あふれ	おあふ	下ゆ	ほろ
申の	袖の	久	よ
うた	こ	ま	恋

。維新の志ハハシキニ志ハハシキニ

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

○祈恋

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~

~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~ 一~~~~~













及してぬる夢路しつはあはれに程あはれに死とそふ  
六 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが  
夜子にけりしつてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが

○近不逢恋

万田きとくはまのついでと甲をくまにさうみぬす人  
古 人志れぬさしやちとさうのまをさうしやまにけりしきまに地ねが  
後 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが  
六 陸奥のちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが

○難逢恋

万十はまにけりしきまに地ねが  
古 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが  
後 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが

“ 関山の嶽の杉もさうしやまをこころにけりしきまに地ねが ”  
“ ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが ”

○不來恋

五六のついでにけりしきまに地ねが  
古 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが  
後 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが

○來不會恋

古 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが  
後 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが  
六 ちかみきてさうしやまをこころにけりしきまに地ねが



後 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
六 正徳のころに時宗の御代はありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
○會後急 ありていふは

五 正徳のころに時宗の御代はありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
上 妹の御代はありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
古 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
及 つけられたるはさかたのせいかつとわらへるるる  
○ 邂逅會急 ありていふは

五 正徳のころに時宗の御代はありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
古 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
後 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
古 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる

六 正徳のころに時宗の御代はありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
○逢不遇急 ありていふは

ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
かゝるる ありていふは  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる

古 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
後 ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる  
ありていふはさかたのせいかつとわらへるるる

重一様といはれども一何れかのうけく社思ひまゝの  
 " 思ひまゝおなわりの様はたはりのしはれども一とて 亥徒  
 千才のふらふらとておなわりのしはれども一とて 亥徒  
 ○名と名 かなと名 じきと名 あとと名  
 たまきと名 しと名 しと名 しと名  
 しと名 あとと名 おとと名 ちと名  
 つきと名 むねと名 あとと名 おとと名  
 まいと名 おとと名 ちと名 ちと名  
 たつと名 風と名 しと名  
 古村と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 " 亥徒よと名 おとと名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名  
 " 亥徒よと名 おとと名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名  
 " 亥徒よと名 おとと名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名

" 志と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 及世中と名 おとと名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 とと名のしと名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 ○惜名 志と名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 人の名と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名  
 万槲のふらふらと名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 古名と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 " 人の名と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 後と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 六と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 " 人の名と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 " 人の名と名 しと名 しと名 しと名 しと名 しと名 亥徒  
 ○惜人者 志と名 しと名 しと名 しと名 亥徒







後於夜半こゝろに寝るに夢をなすはきうりもまたたかぬの月を原

○後朝恋 のちのあゝ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

まじりてくはぬあゝのこゝろにわらふもあはれ別れはかたしこのころ

「ねむるおの夢をせんれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ

「あはれて指のよはれはさすらるるわかれもあはれ別れはかたしこのころ







「 ちえはてい 度と暮らん 財はこも 人むぢあひの ちのちん ちのちん ちのちん  
〇斤思 ちのちん ちのちん ちのちん

ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

かひひて ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

あひひひひ ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

万三 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

古 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

〇 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

古 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

〇 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

「 ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん ちのちん

















○絶之志

もえくじ

古きころはたまたま橋の中流に人々を遊ばせしむる

及いふ人の心もくちあふれぬ半の心もくちあふれぬ

“ 夢よこころ半をばらばらとくちあふれぬおれぬ

“ 其みまき兼世の年毎の心もくちあふれぬ

六くちあふれぬおれぬ心もくちあふれぬ

○絶後志

もえくじ

六年あれぬ心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

“ 心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

“ いまの心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

“ 絶後の心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

○別恋

もえくじ

もえくじ

もえくじ

もえくじ

もえくじ

心をくちあふれぬ心もくちあふれぬ

万土志は聖の権を衣ぬる心もくちあふれぬ

式知は心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

士ゐる心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

古くもくちあふれぬ心もくちあふれぬ

“ 橋のぬの心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

後れもくちあふれぬ心もくちあふれぬ

“ 心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

“ 疑心

疑心

人の心もくちあふれぬ心もくちあふれぬ

よまにちれおく ねらふまゝ いらねん ねしらぬ  
 我ちらぬ人よ ちれくねま ちれまゝに 杜月らうり  
 万思をぬきありとくくま地の神もまんまうちれゆえ 大伴 澄原を  
 古ちれまはるちれまゝとくくまの杜のねまねね 後人 志  
 " 陸止ゆくちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 後人  
 " 杜月らうりのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 志  
 及ちれくちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 中勢  
 " 関まゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 大輔  
 " ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね いせ  
 ○之門恋 かゝらうり  
 旅ちゆまゝのちれまゝとくくまのねまね 志  
 ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 志

" 山のまゝ入るん 後人  
 ○過門恋 かゝらうり  
 旅ちゆまゝのちれまゝとくくまのねまね 後人  
 " ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 後人  
 六 ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 伊勢  
 ○催 恋 かゝらうり  
 ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 志  
 古 杜月らうりのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 後人  
 " ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 志  
 " ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 志  
 六 ちれまゝのちれまゝのちれまゝとくくまのねまね 志  
 ○驚 恋 かゝらうり

とぬ人をねらう〜  
 指 多よの〜  
 六 ありの〜  
 集 かりの〜  
 " よれ〜  
 ○ 疎 忽

おのちの中のおちろ〜  
 古 久の〜  
 六 と〜  
 千 ちの〜  
 ○ 隔 窓

おのちの中のおちろ〜  
 古 久の〜  
 六 と〜  
 千 ちの〜  
 ○ 隔 窓

「苗子かたれ...」

「田...」

「六...」

○痛一 根 恋

五...

六...

「...」

○痛二 根 恋

六... 後人

○痛三 日 比 恋

五... 後人

後... 有文

六... 後人

「...」

○痛四 月 恋

五... 婦人

「...」

六... 婦人

○痛五 年 恋

後... 婦人

「...」

六... 婦人

○痛六 遠 路 恋









古々めれめし〜  
後 替々〜  
上人

○不<sub>二</sub>返<sub>一</sub>事<sub>二</sub>意<sub>一</sub> 〃  
古 〃  
指 〃  
〃

古 〃  
指 〃  
〃

〃  
〃

○不見<sub>二</sub>書<sub>一</sub>意 〃  
及 〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃

〃  
〃





○不憚人見怨

古人めしきみかへ何れも善なる種は多く悪は少くも

古くは

下はのそふれを海ありをれをてそふれ人々をそ

古くは

六あふれつて下をそふれ人々へけきお中をゆへく

後人

○老怨 老後怨

志人の志をほろけり

志ぬれと 志しりてゆく 志しひのちて いくちの世を

つらふけぬと 志つてゆく 志みゆく 老らる

万四くも外にけり 拙を志すまかち志もあふかき 正代

志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

十一 けりてけりてけりてけりてけりてけりてけりてけりて

十 款くせに後の子り けりてけりてけりてけりてけりて

〇 幼 怨 後 山 怨

まゝ年をたらしめりてけりてけりてけりてけりてけりて

ふりてけりて 志しりてゆく 志しひのちて いくちの世を

後のまゝとも 志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

小まみ 小まみ 髪あく かくすまぬ

万三 志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

十一 志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

十六 志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち志すまかち

及人志を以てあはれ一冊の梅子ハるまゝ紅ぬへし付をよまはける

○近志

傳家あるは一日花ちの人のしほふもあはれくはる人なむかへ

まらうま 申垣 ちうりよ 芳垣のちうりよ

をいふもあはれ 新垣のちうりよ ちうりよあはれ ちうりよあはれ

百田はけそめの人自志をまきまきの間うらたはるはちうりよあはれ

市人志をねあはれしやとまきまきと芳垣のちうりよあはれしよあはれ

後しほふもあはれちうりよあはれちうりよあはれちうりよあはれ

○遠志

をちの人のまきまきあはれ

はらうりよあはれ いくへのまき ちうりよあはれ ちうりよあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

はらのちうりよ ちうりよあはれ いくへのまき ちうりよあはれ

をちの人のまきまきあはれ

百田をまきまきあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

「士まきまきのちうりよあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

「田まきまきのちうりよあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

右よまきまきあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

良ねあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

○旅恋

この國の梅をまきまきあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

旅まきまき ちうりよあはれ ちうりよあはれ ちうりよあはれ

旅のちうりよ 旅のちうりよ 丹人のちうりよ ちうりよあはれ

旅まきまき ちうりよあはれ ちうりよあはれ ちうりよあはれ



○獨居恋

恋しうまかり

万八ひらりめでおちあはししは耐きこゆねいつるんあはし

小説 小倉耳

主天に似たりてみせんとつらかり枯れ木の末ををるるは

主少くは多く恋まはるる一もてはまけあはれんこころ

○轉寐恋

こころ縁

指たちちの世のいぢあしこぬおれお射のうらなほけり

こころ縁よりけりてまをまをみくころにまはつる後の

○探見恋

ぬきま

古歌をよみてきりて愛はお見えするつらみ種のおつりけり

後長流よりあはれ人のあはせはおめはあはれをらまは

指おこもぬきまはちちち志を以て探見の恋は縁なれ

六さよ年のおちあはれは探見あつらん衣のうらなれり

○恋夢

夢中恋

万四のあはしんかちけり恋はかたけりあはれはあはれに

主門しんさなさたきしつらゆめはちちあはれはあはれ

古恋おちあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ

「恋しうまかり中よはれはあはれはあはれはあはれ

及れ中あはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ

指あはれちんさなさたきしつらゆめはちちあはれはあはれ

主おちあはれはあはれはあはれはあはれはあはれはあはれ

○夢後恋

ゆえは

恋しうまかり人をまなはれはあはれはあはれはあはれ

恋しうまかりまなはれはあはれはあはれはあはれはあはれ









